

グリーントピックス

No.57

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場

クリーンラーチ挿し木苗生産における肥料の見直し

一般に、挿し木苗の生産では肥料分のない無機質な用土を使うことが推奨されています。クリーンラーチ（成長が早く材質が優れているグイマツ雑種 F₁）の挿し木生産でも、元肥を用いず発根の始まる挿し付け 1 ヶ月後から灌水を兼ねた液肥の散布を行うよう指導してきました。しかし、挿し付け時期が遅く生育期間が短いことなどもあり根系の発達が十分ではありませんでした。

林業試験場では、台木に酸化型グルタチオンを配合した高機能性肥料（カネカペプチド）を与え、用土に緩効性の肥料（オスモコートエグザクト・スタンダード 16-9-12）を混ぜることで、病害や肥料焼けを回避しながら根系や地上部を促成させる育苗手法を開発しました。元肥を使わない慣行法で育てた苗に比べ、根量が 4 倍、苗高が 1.9 倍、根元径が 1.7 倍も大きくなりました（写真-1,2）。根系が発達した苗は、畑に移植した後、高い活着率と良好な成長が期待されます。この成果については、北海道水産林務部林務局森林整備課と共同で作成した「さし木増殖の手引き—増補版—平成 30 年 4 月」にまとめました。入手を希望される方は林業試験場までご連絡下さい。

なお、本研究は、生物系特定産業技術研究支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）」の支援を受けて進めました。

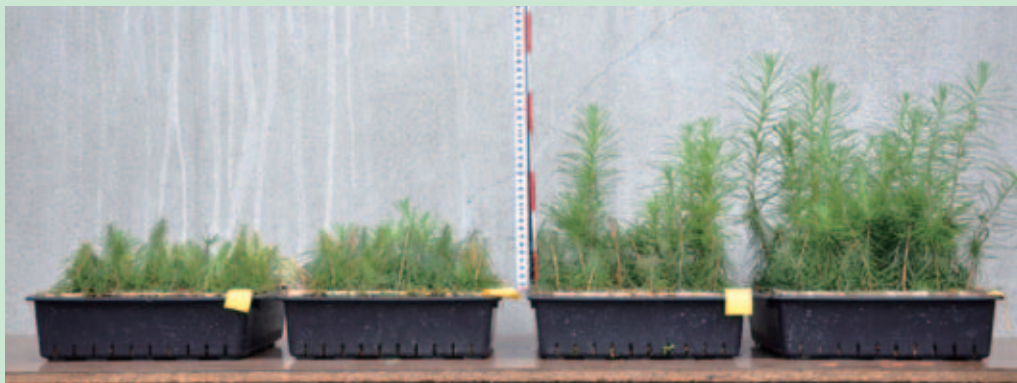


写真-1 元肥なし（左側）と元肥あり（右側）の10月時点の地上部の比較
6月中旬に挿し付け、1ヶ月後からは液肥を1週間に1回散布している。



写真-2 元肥なし（左側）と元肥あり（右側）の10月時点の根系の比較

（育種育苗G 今 博計）